

議案第 6 号、平成 27 年度小平市一般会計予算について、政和会を代表して、反対の立場から討論いたします。

まず、この予算編成については、限られた財源の中で、政和会の要望に幾つか応えていただいていることは評価をし、毎年のものでありますが、予算編成作業に携わられた担当の努力は多とするところがあります。

しかしながら、平成 27 年度は、小林市政三期目の 3 年目となる年度にあたりますが、施政方針では、市長選で市民と約束した「政策インデックス 2013、60 の約束プラス α」についてはまったく触れず、これまで同様、「参加と公開による活気に満ちた都市小平の実現を目指し、変化に柔軟に対応しながら着実に進歩していく市政運営」、「前へ」「前へ」の精神で全力で市政運営にあたる」と、毎回のお題目のように述べるだけでした。今回の予算を見る限り、小平市の将来都市像に掲げる躍動も進化も感じることが出来ず、極めて消極的な予算であり、とても評価に値するものではありません。財政の均衡の名の下に、借金を減らすことを売りにする小林市長の消極的なまちづくりの姿勢そのものであるといえます。義務づけられているから、いままでもやっているから仕方がなくやるという市の消極的な姿勢に問題があります。今だからこそ、自治体独自の創意と工夫による積極的なまちづくりが必要です。

3 日間の審査を通して、市民の貴重な税金の使い道の考え方、予定事業の中身や組み立て、さらには編成過程に至るまで様々な疑問や問題点が明らかになりました。政和会としては、市民生活に大きな影響が及ぶ予算に反対するのは苦渋の選択ではありますが、今回の予算編成については賛成することはできないとの判断にいたりました。以下、主な理由を 9 点にわたり述べさせていただきます。

1 点目は、相変わらずの**投資的経費の低さ**です。代表質問でも指摘した通り、予算は所得の再配分機能を持ち、市民の皆様からご負担いただく税金を、行政経費のどの部分にどのように配分するかにより、おのずから市長の姿勢が分かり、また、私たちが市政を評価する要素となります。この予算では、歳出総額の半分以上である 50.4%を民生費が占め、投資的経費である普通建設事業費はわずか 4.7%しか計上されていません。税金等一般財源の投入割合からすれば、おそらくこの率よりも少ない税金の投入しか行っていないはずで、市民の皆様からご負担いただく税金と民生費の額はほとんど同額の 302 億円です。この予算に占める社会保障経費等の移転的経費の程度や、投資的経費の額から生み出される乗数効果によってもたらされる市民所得の額などを考えれば、このような予算編成にはならないと考えます。都市基盤整備や駅前整備、都市計画道路の整備率は一向に上昇せず、市長の言う「参加と協働で地域の活力を高める」より、まちの活力をすこしでも取り戻すには、公共投資が呼び水になることは明らかです。借金返すばかりでは、職員の活力も能力も育たないことも付け加えておきます。

2 点目は、**予算編成過程**についてです。昨年度予算同様、予算編成過程が公表されていることから、この内容について質疑をさせていただきました。結局、当初要望額、査定額、予算案のそれぞれの数値を並べるだけで、その過程を明らかにする場合は議会だけということになっています。しかも、各課の要望額は、すでに査定を前提とした調整されたものが多く、これでは各課が何をやりたいのか、どのような査定で、優先順位はどうだったのか。次の補正や年度でどういうことが課題なのかなど、編成過程を公表する目的ともいえるものがまったく機能していないことが明らかになりました。このような予算編

成過程の公表は無意味であり、消極的な編成を助長するだけだと指摘しておきます。さらには、今回の予算における行財政改革の取り組みとして、取り組み効果を1億6900万円としています。経費削減の根拠はあいまいで、民間委託化等の推進による削減がゼロでは、評価に値しないのは言うまでもありません。

3点目は、**都市計画税減税**についてです。今回、改定した都市計画税率で初めて予算が組まれています。このことに対し、施政方針で市長公約「約束60+α」の目玉の一つである都市計画税の減税に一言も触れていません。審査の中で、公約が半分以下しか実行できなかったことの説明を市民にすべきではないかとの指摘に、明確な答弁はありませんでした。今回の減税額は、とりもなおさず、都市計画事業を計画的に行ってこなかったための余剰分だけ減らし、今後も都市計画事業に合わせるのではなく、この都市計画税に合わせた都市計画事業しかないという、極めて消極的かつ選挙公約違反の政策です。減税の持つ経済効果の算定や、今後の都市計画事業量の算定も怠った予算だと指摘しておきます。また、公約違反とその説明責任を果たさないことは政治不信を招き、活気を失うことだということも肝に銘じていただきたいと思えます。

4点目は、「緑ゆたかな小平」を売り言葉に使っているにも関わらず、**都市の緑を構成する農地等の減少**に歯止めをかける対策が不十分なことです。平成4年新生産緑地法が施行された当時、農地は306haありましたが、平成25年には206haと1/3にあたる100haが減少しています。もはや農地面積は小平市総面積の10%になってしまいました。生産緑地法による買い取り申出農地の買い取りは、財政難を理由にほとんど行われておりません。そのことから、毎年4.75ha、東京ドーム1個分の農地が失われているにも関わらず何の策も講じてきておらず、今回の予算でも、何も示していないのは、市政の怠慢のなにもものでもありません。近年、局地的集中豪雨時に果たす農地の役割が注目されるなど、農地の持つ多面的機能が重視されてきています。また、環境保全の面からも農地を良好な緑地空間としていくことは大切な事であり、小平市として、農地がどれだけ重要で必要かを改めて検証する予算も必要だと強く要望しておきます。

5点目は、**男女共同参画**についての意識の低さと取り組みの消極的なことでもあります。国では「女性が輝く社会づくり」を最重要課題に位置付け取り組んでいます。今回の審査の中では、組織変更により、男女共同参画の部署が見えづらくなったこと。女性の管理職が少ないことに対する積極的な対応姿勢がみられないことなどが指摘されました。雰囲気づくりの問題ではなく、システム、制度、事業としてやる事が問われています。改めてトップの意識が低すぎるのではないかと指摘しておきます。

6点目は、**子育て施策**についてです。審査の中で、保育園に多額の予算を計上しているのだから、子育て施策は重点を置いて行っているかの答弁があり、あきれてしまいました。子育ては何も保育園をつくることだけではありません。その上、待機児童解消ができていない現状で、子育てしやすい小平にしていくためには、様々な事業の工夫が必要だと指摘させていただきました。若い世代を呼び込み、将来世代への投資を怠っては、都市間競争に負け、消滅可能都市になってしまいます。そのようなビジョンや積極性のない姿勢が現われた予算だと指摘しておきます。施政方針の「子どもが健やかに成長できる社会や子育て家庭がいきいきとした生活を送れる環境整備を推進する」がまったく反映されていない予

算だと言わざるをえません。

7点目は、**防犯防災対策**についてです。小林市政は、防犯に威力を発揮する防犯カメラの設置については、今回通学路に設置する予算を編成していながら、依然として消極的なこれまでの答弁を繰り返すなど、方針に一貫性がないことが明らかになりました。また、防災用トイレの設置が本予算の目玉だと平然というように、継続して行っている事業しか予算化していません。また、依然として、防災行政無線を行方不明者捜索や子供の見守りへの活用を考えない姿勢は、市民感覚とはかけ離れていると言わざるをえません。

8点目は、**教育環境の整備**についてです。児童数の増加が大きい学校では教育に必要な算数教室やランチルーム、また、青少対活動や放課後子ども教室の活動に使用できるスペースがなく四苦八苦している状況があります。また、芝生化した校庭で冬でも思い切り遊ぶ児童の学校と、雨や雪で水たまりや泥んこの状態になり、遊べない児童の学校もあります。これらの学校間の施設格差が子どもたちの教育に及ぼす影響を、格差ではなく、差異であるという答弁にはあきれました。また、校庭の芝生は単なる特色ある学校活動という認識には大きな問題があります。市長がやりたくないから取り組まないでは教育委員会の独立性、中立性に疑問を感じざるを得ません。教育環境の整備は市長の責任です。この責任を果たす予算となっていないことを強く指摘しておきます。

9点目は、**教育委員会制度**の改正を受けての市長の役割についてです。この改正により、市長が召集する総合教育会議が設置されますが、この会議は、教育行政の大綱の策定、教育の条件整備等重点的に講ずべき施策、児童・生徒の生命・身体の保護等緊急に講ずべき措置を協議・調整することになっています。会議をどのように開催するかや、連続サービス事故のような事例が生じた時はどのように対応しようと考えているかなど、市長のリーダーシップが見えてきません。また、教育長の任期が3年であることについての評価や、市長と教育長・教育委員の教育政策に対する考え方が対立する事態が生じた時はどのように対処するかなど、明確な答弁がありませんでした。このことは、今後の小平の教育行政の大きな問題だと指摘しておきます。

最後に、「選択と集中によって市の課題に対応し、必要な施策には積極的に取り組むことで、明るい未来を次世代に引き継げるよう、将来に向けて活力を高めていくための事業展開を図る予算として編成した」と市長のいうこの予算に対し、残念ながら、将来に向けて期待がもてるものとは到底思えないことを申し添え、政和会を代表しての反対討論といたします。